

## 巻 頭 言

### ガーシャへの手紙を届ける事のできる人



専務取締役  
田 中 裕

最近の自動車業界をめぐる世界的変化は激しい。エネルギー、環境問題など解決しなければならない重要課題が多く、対応できなければ企業の存続は不可能となる。

部品業界においても優勝劣敗が早晚明らかになってくると思われる。

このような環境の中で我々はどう対処すれば良いのだろうか。対応策にウルトラCは無く、最終顧客に喜んでいただけるコストパフォーマンスに優れた製品を開発、生産しつづける事に尽きるのではないだろうか。

さて、どのようにしてこの課題を達成していくかを考える時、以前に読んだ「ガーシャへの手紙(1899年3月に発表、世界中で4000万部以上刊行)」を思い出す。

スペインとアメリカの戦争が始まった時、大統領は暴徒の指導者ガーシャの協力を確保しなければならなかった。そのため、ガーシャへ大統領の書簡を早急に届ける必要があったが、ガーシャの所在はキューバの山岳の要塞のどこかにいるという以外何も分からず、手紙あるいは電報による彼への通信は不可能であった。ある人が「もし誰かできるとすれば、ローワンという人が大統領のためにガーシャを見つける事ができるでしょう」と言った。そしてローワンは大統領に呼ばれてガーシャに渡す一通の手紙を預かった。

ローワンがいかに苦勞してガーシャに手紙を渡したかについて小冊子には触れられていないが、ここで強調されているのは、大統領がガーシャに手渡す一通の手紙をローワンに渡した時、「ローワンはガーシャの所在を尋ねようとはしなかった」という事である。ローワンは自分に信頼を持って話された使命(仕事)を理解し種々の困難が予想される仕事を全知全能を傾けて主体的に遂行したのであった。

ガーシャへの手紙を届ける事のできる人とは、信頼にこたえ、目的のため勇気を持って迅速に行動し、全エネルギーを集中させ、主体的に実行できる人である。

優勝劣敗が進む中で勝ち組になるためには、自ら挑戦的課題を設定し、色々な困難にめげず実現していく事が重要である。今まさに一人一人が「ガーシャへの手紙を届ける事のできる人」になる事が求められていると思う。